

東北福祉大学に対する加盟判定審査結果

I 加盟判定審査結果

2003（平成15）年度加盟判定審査の結果、貴大学は本協会の大学基準に適合していると認定されたので、正会員への加盟・登録を承認する。

II 総 評

1 理念・目的・教育目標の達成への全学的な姿勢

貴大学は、前身の東北福祉短期大学の開学以来、いわば社会福祉学の教育・研究を一筋に歩み、道元禅師の教えである「行学一如」を建学の精神および基本理念とし、理論と実践の調和をはかって福祉学の教育・研究の具体化に努めてきた。この理念と姿勢は、まことに適切であり貴大学の特色を現すものとして評価できる。

現在、学部、大学院および通信教育部において社会福祉に関する学科を整備し、総合的に福祉学を教育・研究を推進している。同時に、学校法人とは別組織の社会福祉法人を複数立ち上げ、福祉教育と研究の実践の場としていることは、「行学一如」の具体化を示しているばかりでなく、社会福祉学の教育のあり方の先行モデルを提供したものとしても特筆される。

また、学内の「感性福祉研究所」の設置、「高齢者痴呆介護研究・研修仙台センター」による地域社会との連携などの取り組みについても、理念・目的・教育目標の達成に向けた姿勢として評価に値する。

2 自己点検・評価の体制

大学設置基準が改正された1991（平成3）年に、早々に自己評価委員会を立ち上げたことは、自己点検・評価への貴大学の認識を示すものであるといえる。2000（平成12）年には、大学院自己評価委員会および教育業績評価委員会、2001（平成13）年4月には「FD委員会」を設置し、制度的システムが一応確立しているが各機関の連携に問題がある。

自己点検・評価の具体的成果として、2001（平成13）年3月の『教員教育研究業績書』、2003（平成15）年度の「点検・評価報告」は、改善改革への第一歩として大きな意味をもつものであるが、自己評価委員会の設置から実に十年以上経ている。貴大学が、学部と大学院の体制の増強、関連社会福祉法人の設置と施設の開設などに、大学

のエネルギーを費やしてきたことは理解できるが、他大学に比べ、点検・評価の制度的整備、実際の活動が遅れたことは否めない。

今後は、自己点検・評価に対する学内の理解を深め、その点検・評価をさらなる改善改革に結び付けるよう努力されたい。

3 長所の伸張と問題点の改善に向けての取り組み

創立以来、関連分野も含めて社会福祉の分野に多くの人材を送ってきた実績は、建学の理念に基づき、多年にわたり続けてきた貴大学の努力の成果といえる。同時に、芹沢銈介美術工芸館やコンサート専用ホールなど、課外教育に関わる施設・設備を充実させ、感性豊かな人材の育成に努めている点も評価できる。上記のような貴大学のこれまでの実績は十分な専門教育を志向し努力を続けてきた結果であり、それは、社会福祉関係の資格試験の合格率の高さにも現れている。

しかしながら、専門教育に対する過度の偏重は、幅広い教養・総合的な知識・他領域を縦断する視点を身に付けることを困難とし、それによって大学と各種専門学校との質的区別が失われかねない。また、社会福祉学科において収容定員に対する在籍学生数比率が高いため、専任教員1人あたりの在籍学生数も多くなっている点は、多くの実習を伴う同学科の特徴を考えると改善すべき点である。

なお、大学院については博士課程が2002（平成14）年4月に設置され、今後の発展が期待される。特に、複数指導制の採用など研究指導方法についての工夫は評価できる。その一方で、院生の自習室スペースの確保や経済的支援体制の強化は今後の課題であろう。

また、通信制大学・通信制大学院の開設も、貴大学の専門教育を社会へ広く提供するものとして大きな意義をもつが、他面で教育の質的水準の確保・保持という重要な責任と課題が伴っている。加えて、財政状況についてもより積極的な公開が望まれる。

これらの点に関して勧告と助言を踏まえ、一層の改善に努められたい。

Ⅲ 大学に対する提言

総評に提示した事項に関連し、特に改善を要する点や特筆すべき点を以下に列挙する。

一、勧告

1 財政について

財政公開については、「東北福祉大学通信」を通じて消費収支計算書の公開が行われているが、教職員・学生・父母および卒業生をはじめとした関係者に対し、財務三表すべてを含めた財政公開を広く積極的に実施されたい。

二、助 言

1 理念・目的・教育目標について

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

2 教育研究組織について

- ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 学部、大学院および通信教育部において社会福祉に関する学科・専攻を整備し、総合的に福祉学を教育・研究しようとしている体制は評価できる。
 - 2) 学校法人とは別に社会福祉法人として特別養護老人ホーム・保育園・介護老人保健施設を設置し、諸機関が連携して学生の実習その他の教育に資している。
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

3 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について

(1) 教育研究の内容等

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 点検・評価報告書においても「本学の開設科目は専門基礎教育科目に偏りがちであり、幅広い教養・総合的な知識・他領域を縦断する視点が得られにくい状況にある」と認識されているが、卒業要件単位数124単位中102単位を専門科目が占めている点については、改善が望まれる。

(2) 教育方法とその改善

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 学生による授業評価が大学として組織的に行われていないので、全学的な実施に向けて積極的な取り組みが望まれる。
 - 2) 履修登録の上限設定を60単位としている点については、多すぎるので改善が望まれる。

(3) 通信制大学等

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

4 大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について

(1) 教育・研究指導の内容等

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

(2) 教育・研究指導方法の改善

- ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 早期から主査・副査との複数指導制を採用し、また、全教員参加の下で年に3回以上のテーマ発表会を開催している点は、研究指導方法のひとつとして評価できる。
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

(3) 学位授与・課程修了の認定

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

(4) 通信制大学院

- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
- ② 問題点の指摘に関わるもの
なし

5 学生の受け入れについて

- ① 長所の指摘に関わるもの

- 1) 大学院研究科においては、他大学出身者だけでなく、社会人に対しても広く門戸を開き受け入れている点については評価できる。
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 社会福祉学科における収容定員に対する在籍学生数比率が高いので改善が望まれる。
- 6 教育研究のための人的体制について
- ① 長所の指摘に関わるもの
なし
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 教員1人あたりの在籍学生数を見ると、社会福祉学科および社会教育学科でそれぞれ70人を超えている点は改善が望まれる。
- 7 研究活動と研究体制の整備について
- (1) 研究活動
 - ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 教員の研究成果の発表につき、大学院担当教員による大学院会議において発表論文・著書の報告会が行われている点は評価できる。
 - 2) 「感性福祉研究所」に学内外の研究者が多数参加して学際的研究が行われている点、またそれに院生も参加している点も含め評価できる。
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
なし
 - (2) 研究体制の整備
 - ① 長所の指摘に関わるもの
なし
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
なし
- 8 施設・設備等について
- ① 長所の指摘に関わるもの
 - 1) 芹沢銈介美術工芸館やコンサート専用ホールの音楽堂「けやきホール」を有するほか、課外教育に関わる施設・設備が充実しており、感性豊かな人材の育成に努めている点は評価できる。
 - ② 問題点の指摘に関わるもの
 - 1) 院生の在籍者数に対して、自習室スペースが不足しているので充実が望ま

れる。

9 図書館及び図書等の資料、学術情報について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

10 学生生活への配慮について

① 長所の指摘に関わるもの

1) 就職指導の態勢が整っている。特に進路相談を「意識する」「認識する」「準備する」「活動する」の4段階を設定して組織的・系統的に行っている。

2) 外国人留学生に対して宿舍の提供を行うなど生活面での配慮が行われている。

② 問題点の指摘に関わるもの

1) 院生の経済的支援体制を強化する必要がある。

2) 相談室における相談時間が毎日1時間というのは学生数からみて時間的に少なすぎるので延長が望まれる。

11 管理運営について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

12 財政について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

1) 消費収支比率が経年的に高くなっている点は、改善が望まれる。

13 事務組織について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

なし

14 自己点検・評価等について

① 長所の指摘に関わるもの

なし

② 問題点の指摘に関わるもの

- 1) 自己点検・評価に対する学内の意識・理解度を深め、点検・評価への真剣な取り組みと充実を早急に図るとともに、その結果を改善・改革に結び付けることが望まれる。

東北福祉大学に対する参考意見

加盟判定審査の過程で、分科会の主査報告書に以下のような意見があったので列記する。

- 1 大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備について
 - ・「禅のこころ」は、年6回（1コマ90分）の座禅とその実践を通して1単位とあるが、「その実践」とは何であるのか、それらが単位の根拠となりうるのか不分明である。
 - ・大学の教育目標の中に専門的学術・技能の教授とならんで「豊かな教養を培う」ことが掲げられ、点検・評価報告書中にも「幅広い教養と教育を前提として」との記述があるが、一般教養的授業科目が、基礎教養科目12単位および健康とスポーツ科目4単位の計16単位となっていることから、目標の実現に向けての改善が望まれる。
 - ・通信教育部を設置した意図を形骸化しないためにも、適切な教材の作成、およびキメ細かな指導を可能にするスタッフ体制の確立等を軸に、通信教育の「質」の確保を期待したい。
 - ・FD委員会を設置しての取り組みは学部および大学院において、まだ試行的だが、今後の発展に期待したい。
- 2 大学院の教育・研究指導の内容・方法と条件整備について
 - ・通信制大学院については、実際に受け入れている人数が通学課程の2倍を超え、指導にあたり大学院教育としての質の確保が十分なのかどうか懸念が残る。
 - ・大学院の臨床心理学分野は、「第1種指定大学院」に認定されているが、付属の臨床心理相談室による臨床心理実習は、今後の社会的ニーズに応えてゆく人材の育成として評価できるが、実習指導やスーパービジョンの体制に不安が残る。
- 3 学生の受け入れについて
 - ・社会教育学科における実推薦入学者が全入学者数の50%を超えており（57.5%）、改善が望まれる。
 - ・大学院においては、「社会人学生の受入れを今以上に積極的に取り入れる必要がある」と認識しながらも、特別に社会人枠を設けて募集はしていないが、試験制度（たとえば語学など）について一定の配慮が望まれる。
- 4 教育研究のための人的体制について
 - ・点検・評価報告書において「社会福祉学の原理論ともいえるべき社会学に専任教員を配置できず、兼任教員にゆだねている状況は改善の余地」がある旨記述しているが、社会福祉学の見地からも検討が望まれる。
 - ・教員選考については、「公募制の長所導入という目標に向け、方法を模索し続けていくことの重要性を意識している」ことから、教員人事の透明化に向け今後を期待したい。
- 5 研究活動と研究体制の整備について

- ・ 科学研究費補助金の獲得が少ないことから申請件数、採択率をともに上げるべく努力が望まれる。
- ・ 個人研究費は21万円であるが、別に図書購入費、研究旅費が全員に保障されており、また、特別研究助成制度もある。特段に問題にすべき点はない水準にあるといえる。
- 6 施設・設備等について
 - ・ 大学の性格上、完全なバリアフリー化に向けて、一層の努力が望まれる。
- 7 図書館および図書等の資料、学術情報について
 - ・ 図書館閉館時間は平日16時30分、土曜日12時30分となっており、講義期間中および定期試験期間中はそれぞれ19時、14時まで延長されている。最終授業終了後閉館までは30分間しかないことから開館時間の延長が望まれる。
 - ・ 図書館の学生閲覧座席数は、学生収容定員の12.1%であり、判断基準をクリアしている。ただし、学生の在籍者数との関係でみると9.7%であることに留意されたい。
- 8 学生生活への配慮について
 - ・ 全学生のサークル活動への設備と支援体制がよくできている。
- 9 管理運営について
 - ・ 学長の選任は、曹洞宗の内局の推薦により曹洞宗管長が任命する体制になっているが、大学というものの性質上、学長の選任にあたり大学側、特に教授会の意向反映の制度の検討が必要であろう。
 - ・ 学長は常務理事として、学部長は理事として、それぞれ法人部門を統括する理事会との連結点に位置して意思疎通に努めている体制になっている。
- 10 財政について
 - ・ 特定預金（資産）の積み立てについては一般には積み立て目的が具体的であるか、積立金額にはっきりした根拠があることが財務の透明性、説明責任からみて必要であろう。大学固有の考えで、その他の固定資産勘定で「経費調整資金引当特定資産」を持ち、年々積み立てを行い2001（平成13）年度には58億円に達しているが、そのために貸借対照表比率において資産の固定化が目立ったり、流動比率、前受金保有率等の数値が異常に悪い数値になってしまっている。点検・評価報告書では、これを流動資産と読み替えて記述しているが、財務三表公開の場合誤解を与えかねないおそれがあるのではないか。
 - ・ 財政公開にあたって、財務諸表は小科目までを公開してはどうか。また財務三表の掲載に解説を加えるなどの工夫が望まれる。
 - ・ ホームページを利用した財政公開を検討することが望まれる。

東北福祉大学に対する評定一覧（参考）

		達成度評定	水準評定
教育研究組織		A	
大学・学部等の教育研究の内容・方法と条件整備	教育研究の内容等	B	
	教育方法とその改善	B	
	通信制大学等	※	
大学院研究科の教育・研究指導の内容・方法と条件整備	教育・研究指導の内容等	A	
	教育・研究指導方法の改善	B	
	学位授与・課程修了の認定	A	
	通信制大学院	※	
大学・学部等の学生の受け入れ		B	
大学院研究科の学生の受け入れ		A	
大学・学部等の教育研究のための人的体制		B	
大学院研究科の教育・研究のための人的体制		B	
大学院における研究活動と研究体制の整備	研究活動	A	
	研究体制の整備	B	
大学・学部等の施設・設備等		A	
大学院研究科の施設・設備等		A	
図書館及び図書等の資料、学術情報		B	
大学・学部等の学生生活への配慮		A	
大学院研究科の学生生活への配慮		B	
大学・学部等の管理運営		A	
大学院研究科の管理運営		A	
財政公開			3
財務比率			2
事務組織		A	
大学・学部等の自己点検・評価等		B	
大学院研究科の自己点検・評価等		B	

①上記各項目の達成度評定は、大学審査分科会第9群での評定をもとに判定委員会で決定した評定を示している。その評定にあたっては、Aを標準として、B、Cと減点していく方法をとっている。具体的には、審査結果ならびに参考意見のコメントを参照されたい。

②財政の項目の水準評定は、大学財政評価分科会での評定をもとに判定委員会で決定した評定を示している。その評定にあたっては、2を標準として、それより優れていれば1、劣っていれば3を付している。具体的には、審査結果ならびに参考意見のコメントを参照されたい。

③通信教育部、ならびに通信制大学院については、開設後間もないので、評価対象から除外している。今後の成果を期待したい。